

施策評価シート

施策等名称	子どもの発達段階別施策の推進	体系番号	0201020201
		主管課	生涯学習課

1 施策基本情報

現状と課題	第1次、第2次計画では、発達段階に応じた働き掛け、様々な機会の充実を目指してきました。多様化する時代の中で、子どもを取り巻く生活環境は変化していることから、家庭、保育園、学校、地域、図書館等関係機関が一体となって子どもの読書活動を推進する必要がある。
-------	---

めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	第1次、第2次計画における成果や課題、社会情勢の変化などを踏まえ、「たくましく やさしい 夢のある子ども」に育つための「ことばとこころを育てる読書活動」が継続して実践されている。
---------------------------	---

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値
	①	読書に関する意識(読書への興味関心)の割合	興味関心がある児童数/対象児童数(%) (小学校6年)	87.70	91.10
②	1か月不読者(読んだ本が0冊の割合)	不読者児童数/対象児童数(%) (小学校4~6年)	0.30	0.10	
③					

施策の体系	名称	胎児期(生まれる前)		主管課	生涯学習課		
		詳細	おなかの赤ちゃんに、優しく肉声で語りかけたり、一緒に心地よい音楽を聴いたりして、安心感を与える。				
	まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1	語りかけ、子守うた、わらべうたの大切さの講座等開催数	講座等開催数(回)	12	12	1 読りーむinちの活動支援事業	実施
						2 こども読書活動応援センター事業	実施
						3	
	2				4		
	3				5		
					6		
	基本政策間連携						
	名称	乳児期(0歳~2歳)		主管課	生涯学習課		
		詳細	肌のぬくもりを感じながら、肉声での語りかけやうた、読み聞かせなどによる絵本との出会いを楽しみ、親子の絆を深める。				
	まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1	ファーストブックプレゼント事業の充実	プレゼンター数(人)	25	30	1 読りーむinちの活動支援事業	実施
						2 こども読書活動応援センター事業	実施
					3		
2	子育て講座・子育て学級などでの子守うた、わらべうた等の講座	講座開催数(回)	21	21	4		
3	赤ちゃんおはなし会の開催	おはなし会開催数(回)	48	48	5		
				6			
基本政策間連携							
名称	幼児期(2歳~6歳)		主管課	生涯学習課			
	詳細	語りかけや読み聞かせなど、耳からのことばを十分に楽しみながら、ことばの力や想像力・感性を伸ばし、友だちとの遊びの中で、様々な体験を広げる。					
まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
1	「朝の絵本の時間」の継続と朝読書参観の実施	実施	実施	実施	1 読りーむinちの活動支援事業	実施	
					2 こども読書活動応援センター事業	実施	
					3		
2	図書館、地区こども館・図書館分室の絵本の充実	絵本の冊数(冊)	34,450	34,750 35,000	3 図書館資料購入事業	実施	
					4 図書館分室運営事業	実施	
3					5		
					6		
基本政策間連携							

施策評価シート

施策等名称	子どもの発達段階別施策の推進	体系番号	0201020201
		主管課	生涯学習課

※施策の柱が4つ以上ある場合は下記へ記載

施策の体系	施策の柱 4	名称	学童期・小学校低学年(6歳～8歳)			主管課	生涯学習課	
		詳細	聞く読書から、読む読書へと関心を広げ、自らの読書活動を楽しむ。					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
		1	セカンドブックプレゼントの実施	実施	実施	1 読りーむinちの活動支援事業 2 こども読書活動応援センター事業	実施	実施
	2	「朝の読書の時間」の継続と朝読書参観の実施	実施	実施	3			
	3	調べ学習コンクールへの参加	実施	実施	4 5 6			
	基本政策間連携							
	施策の柱 5	名称	学童期・小学校中学年(8歳～12歳)			主管課	生涯学習課	
		詳細	幅広い読書活動をし、最後まで読み通す力をつけ、考えを広げ深め、自分の思いや考えを伝えていこうとする。					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
		1	「朝の読書の時間」の継続と朝読書参観の実施	実施	実施	1 読りーむinちの活動支援事業 2 こども読書活動応援センター事業	実施	実施
	2	調べ学習コンクールへの参加	実施	実施	3 4			
3				5 6				
基本政策間連携								
施策の柱 6	名称	青年前期・中学校			主管課	生涯学習課		
	詳細	目的をもって読書活動をし、知識を広げ、考えを深めたり、読書活動による感動を体験したりすることを通じて、これからの人生をより豊かに生きるための力をつける。						
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分		
	1	「朝の読書の時間」の継続と朝読書参観の実施	実施	実施	1 読りーむinちの活動支援事業 2 こども読書活動応援センター事業	実施	実施	
2	調べ学習コンクールへの参加	実施	実施	3 4				
3				5 6				
基本政策間連携								
施策の柱 7	名称	青年中期・高等学校等(15歳～18歳)			主管課	生涯学習課		
	詳細	読書活動を自分の楽しみの一つとするとともに、思考力・判断力・表現力を高め、自分の世界を広げ、生き方を探るための読書活動を続ける。						
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分		
	1	「朝の読書の時間」の継続	実施	実施	1 読りーむinちの活動支援事業 2 こども読書活動応援センター事業	実施	実施	
2	読書推進活動への参加(図書館等での読み聞かせ)	実施	実施	3 4				
3				5 6				
基本政策間連携								

施策等名称	子どもの発達段階別施策の推進	体系番号	0201020201
		主管課	生涯学習課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)					
施策 1	読書に関する意識(読書への興味関心)の割合	小学校6年 87.7 中学校3年 80.1	-	84.30	84.30	84.30	86.00	86.00
		91.10	-	92.54	92.54	92.54	94.40	94.40
変動要因等	2018年度	読書教育に関する調査は2019年度に実施。						
	2019年度	「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた率。						
	2020年度	読書教育に関する調査は3年に1回行う。次回調査は2022年度。						
	2021年度	読書教育に関する調査は3年に1回行う。次回調査は2022年度。						
	2022年度	読書教育に関するアンケートを実施。興味関心については、全国学力学習状況調査の結果による。						
	2023年度	読書教育に関する調査は3年に1回行う。次回調査は2025年度。						
施策 2	1か月不読者(読んだ本が0冊の小中学生人数の割合)	小学校4~6年 0.3 中学校1~3年 1.2	-	0.40	0.70	0.70	0.70	0.70
		0.10	-	99.7	99.40	99.40	99.40	99.40
変動要因等	2018年度	読書教育に関する調査は2019年度に実施。						
	2019年度	全国の小学生不読者率6.8%と比較すると極端に少なく、読書教育の成果が現れているものと思われる。						
	2020年度	読書教育に関する調査は3年に1回行う。次回調査は2022年度。						
	2021年度	読書教育に関する調査は3年に1回行う。次回調査は2022年度。						
	2022年度	10月に調査を実施。「朝読書」を毎日行っているので不読者の割合は低い。中学校で不読率が低下しているの比べ、小学校で増加している。完読しないと1冊と数えない・朝読書以外に読まないなどの理由が考えられる。						
	2023年度	読書教育に関する調査は3年に1回行う。次回調査は2025年度。						
柱1 1	語りかけ、子守うた、わらべうたの大切さの講座等開催数	12	12	12	0	4	9	12
		12	100.00	100.00	0	33.33	75.00	100.00
変動要因等	2018年度	月1回のペースで実施した。						
	2019年度	月1回のペースで実施した。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、講座を中止した。						
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の影響の少ない時期に4回開催。						
	2022年度	感染症対策を取り定員制で9回開催。						
	2023年度	定員は設けず月1回予定し参加者のいる回は実施。						
柱2 1	ファーストブックプレゼント事業の充実 プレゼンター数	25	25	17	17	16	24	24
		28	89.29	60.71	60.71	57.14	85.71	85.71
変動要因等	2018年度	読書の森 読りむのちの ファーストブックの役員は新規役員の加入が進んでいない。						
	2019年度	推進母体である読りむのちのの会員は、新規入会者はあるものの若年層が手薄である。						
	2020年度	ファーストブックを担当する新規会員はなかった。コロナの影響で実際に活動に参加できた読りむのちのプレゼンターは各回2名ずつ。						
	2021年度	ファーストブックを担当する新規会員はなかった。コロナの影響で実際に活動に参加できた読りむのちのプレゼンターは各回2名ずつ。						
	2022年度	ファーストブックを担当する新規会員はなかった。読りむのちのプレゼンターは各回2名ずつで当番を組んだが、各自の都合により、そろわないときもあった。						
	2023年度	ファーストブックを担当する新規会員はなかった。読りむのちのプレゼンターは各回3名ずつで当番を組んだが、各自の都合により、そろわないときもあった。						
柱2 2	子育て講座・子育て学級などでの子守うた、わらべうた等の講座	21	21	21	0	9	10	22
		21	100.00	100.00	0.0	42.86	47.62	104.76
変動要因等	2018年度	計画通り講座を実施できた。						
	2019年度	計画通り講座を実施できた。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、講座を中止した。						
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部講座を中止した。						
	2022年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部講座を中止した。						
	2023年度	感染症対策を取りながら、実施した。						
柱2 3	赤ちゃんおはなし会の開催	48	48	48	1	18	27	32
		48	100.00	100.00	2.08	37.50	56.25	66.67
変動要因等	2018年度	計画通り月2回講座を実施できた。						
	2019年度	計画通り月2回講座を実施できた。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、8月に1回のみ開催となった。						
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の影響の少ない時期に18回開催。						
	2022年度	感染症対策を取り定員制で27回開催。						
	2023年度	定員は設けず32回開催。						

施策等名称	子どもの発達段階別施策の推進	体系番号	0201020201
		所管課	生涯学習課

No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)					
柱3 1	「朝の絵本の時間」の継続と朝読書参観の実施(読書推進計画における5段階評価)	未実施	3.80	4.00	3.00	3.00	4.00	4.00
		4.00	95.00	100.00	75.00	75.00	100.00	100.00
変動要因等	2018年度	保育所の朝の絵本の時間と小中学校の朝読書参観は全施設において実施した。						
	2019年度	保育所の朝の絵本の時間と小中学校の朝読書参観は全施設において実施した。						
	2020年度	コロナの影響により、「朝の絵本の時間」見学会は5園のみの実施。小学校の朝読書参観は中止した。						
	2021年度	コロナの影響により、「朝の絵本の時間」見学会は6園のみの実施。小・中の朝読書参観はコロナのため、読りむの訪問は自粛した。						
	2022年度	読りむ in ちによる「朝の絵本の時間」見学会は、コロナ感染予防に配慮して実施しなかったが、こども読書活動応援センターにより、7園の参観、懇談を実施した。						
	2023年度	読りむ in ちによる「朝の絵本の時間」見学会を6園、こども読書活動応援センターの計画による全小中学校の「朝読書参観」また、全小中学校の計画による「読書参観」を実施した。						
柱3 2	図書館、地区こども館・図書館分室の絵本の充実	34,450	35,150	33,135	33,435	34,160	34,722	35,358
		37,000	95.00	89.55	90.36	92.32	93.84	95.56
変動要因等	2018年度	絵本の購入や痛んだ絵本の入れ替えを進めた。						
	2019年度	絵本の購入や痛んだ絵本の入れ替えを進めた。						
	2020年度	絵本の購入や痛んだ絵本の入れ替えを進めた。						
	2021年度	絵本の購入や痛んだ絵本の入れ替えを進めた。						
	2022年度	絵本の購入や痛んだ絵本の入れ替えを進めた。						
	2023年度	絵本の購入や痛んだ絵本の入れ替えを進めた。						
柱4 1	セカンドブックプレゼントの実施(読書推進計画における5段階評価)	未実施	3.90	4.00	3.00	3.50	3.50	4.00
		4.00	97.50	100.00	75.00	87.50	87.50	100.00
変動要因等	2018年度	全小学校1年生にプレゼントを実施した。						
	2019年度	全小学校1年生にプレゼントを実施した。						
	2020年度	コロナの影響により、参観日の親子読みの実施や地域の方をプレゼンターとすることはできなかったが、全小学校で実施することができた。						
	2021年度	大規模校の保護者同席はできなかったが、中・小規模校では、親子読みが実施できた。						
	2022年度	各校とも感染予防対策に配慮した会場の設定を工夫し、プレゼントを実施した。感染対策の都合により、親子読みを実施した学校は5校。						
	2023年度	各校での手渡し会、親子読みが温かい雰囲気の中で実施することができた。また、年度末の来入見保護者会で説明の時間をいただき、保護者の理解を進めることができた。						
柱4 2	「朝の読書の時間」の継続と朝読書参観の実施(読書推進計画における5段階評価)	未実施	4.00	4.00	3.00	3.50	3.50	3.50
		4.00	100.00	100.00	75.00	87.50	87.50	87.50
変動要因等	2018年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2019年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2020年度	朝読書自体はコロナ禍であっても継続できたが、朝読書参観の実施は予定通り進まなかった。						
	2021年度	朝読書自体はコロナ禍であっても継続できた。朝読書参観ができた学校もあった。						
	2022年度	全小中学校において実施。内容についての課題を全校で共有し改善に取り組んだ。						
	2023年度	全小中学校において実施。内容についての課題を全校で共有し改善に取り組んだ。						
柱4 3	調べ学習コンクールへの参加(読書推進計画における5段階評価)	未実施	3.50	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
		4.00	87.50	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
変動要因等	2018年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2019年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2020年度	コロナの影響で夏休みが短期間となり、応募数は前年より減少したが、予想を上回る応募数となった。						
	2021年度	応募数が増加した。						
	2022年度	中学校の応募数が大きく増加し、市内全児童生徒の約3割が調べ学習に取り組んだ。						
	2023年度	中学校の応募数が大きく増加し、市内全児童生徒の3割以上が調べ学習に取り組む主催者として、総務大臣賞を受賞した。						
柱5 1	「朝の読書の時間」の継続と朝読書参観の実施(読書推進計画における5段階評価)	未実施	4.00	4.00	3.00	3.50	3.50	3.50
		4.00	100.00	100.00	75.00	87.50	87.50	87.50
変動要因等	2018年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2019年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2020年度	朝読書自体はコロナ禍であっても継続できたが、朝読書参観の実施は予定通り進まなかった。						
	2021年度	朝読書自体はコロナ禍であっても継続できた。朝読書参観ができた学校もあった。						
	2022年度	全小中学校において実施。内容についての課題を全校で共有し改善に取り組んだ。						
	2023年度	全小中学校において実施。内容についての課題を全校で共有し改善に取り組んだ。						

施策等名称	子どもの発達段階別施策の推進	体系番号	0201020201
		所管課	生涯学習課

No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)					
柱5 2	調べ学習コンクールへの参加(読書推進計画における5段階評価)	未実施	3.50	4.00	4.00	0.00	4.00	4.00
		4.00	87.50	100.00	100.00	0.00	100.00	100.00
変動要因等	2018年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2019年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2020年度	コロナの影響で夏休みが短期間となり、応募数は減少したが、期待以上の数値であった。						
	2021年度	応募数が増加した。						
	2022年度	中学校の応募数が大きく増加し、市内全児童生徒の約3割が調べ学習に取り組んだ。						
	2023年度	中学校の応募数が大きく増加し、市内全児童生徒の3割以上が調べ学習に取り組み主催者として、総務大臣賞を受賞した。						
柱6 1	「朝の読書の時間」の継続と朝読書参観の実施(読書推進計画における5段階評価)	未実施	4.00	4.00	3.00	3.50	3.50	3.50
		4.00	100.00	100.00	75.00	87.50	87.50	87.50
変動要因等	2018年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2019年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2020年度	朝読書自体はコロナ禍であっても継続できたが、朝読書参観の実施は予定通り進まなかった。						
	2021年度	朝読書自体はコロナ禍であっても継続できた。朝読書参観ができた学校もあった。						
	2022年度	全小中学校において実施。内容についての課題を全校で共有し改善に取り組んだ。						
	2023年度	全小中学校において実施。内容についての課題を全校で共有し改善に取り組んだ。						
柱6 2	調べ学習コンクールへの参加(読書推進計画における5段階評価)	未実施	3.50	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
		4.00	87.50	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
変動要因等	2018年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2019年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2020年度	コロナの影響で夏休みが短期間となり、応募数は前年より減少したが、予想を上回る応募数となった。						
	2021年度	応募数が増加した。						
	2022年度	中学校の応募数が大きく増加し、市内全児童生徒の約3割が調べ学習に取り組んだ。						
	2023年度	中学校の応募数が大きく増加し、市内全児童生徒の3割以上が調べ学習に取り組み主催者として、総務大臣賞を受賞した。						
柱7 1	「朝の読書の時間」の継続と朝読書参観の実施(読書推進計画における5段階評価)	未実施	4.00	4.00	3.00	3.50	3.50	3.50
		4.00	100.00	100.00	75.00	87.50	87.50	87.50
変動要因等	2018年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2019年度	全小中学校・高等学校において実施。						
	2020年度	朝読書自体はコロナ禍であっても継続できたが、朝読書参観の実施は予定通り進まなかった。						
	2021年度	朝読書自体はコロナ禍であっても継続できた。朝読書参観ができた学校もあった。						
	2022年度	全小中学校において実施。内容についての課題を全校で共有し改善に取り組んだ。						
	2023年度	全小中学校において実施。内容についての課題を全校で共有し改善に取り組んだ。						
柱7 2	読書推進活動への参加(図書館等での読み聞かせ)(読書推進計画における5段階評価)	未実施	3.50	3.50	3.00	3.00	3.00	3.00
		3.50	100.00	100.00	85.71	85.71	85.71	85.71
変動要因等	2018年度	計画通り読み聞かせを実施した。						
	2019年度	計画通り読み聞かせを実施した。						
	2020年度	コロナ禍により、制限を設けて実施した。						
	2021年度	コロナ禍により、制限を設けて実施した。						
	2022年度	コロナ禍により、制限を設けて実施した。						
	2023年度	高校生による読み聞かせ会を実施。						

施策等名称	子どもの発達段階別施策の推進	体系番号	0201020201
		主管課	生涯学習課

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目	2018年(前年度比)		2019年(前年度比)		2020年(前年度比)		2021年(前年度比)		2022年(前年度比)		2018年~2023年(総括)	
	投資額	事業費(円)	19,290,674	19,320,175	1.00	19,394,146	1.00	19,697,152	1.02	20,561,908	1.04	20,355,700
うち一財(円)		19,290,674	19,315,975	1.00	19,394,146	1.00	19,695,752	1.02	19,528,828	0.99	20,326,220	1.04
(2018年~2023年(総括)については2023年の実績を記載)	増減理由(一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)											
進捗評価	おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調	
総合評価	主な取組内容や成果	胎児期から乳幼児期、学童期、中学生の青年前期まで、ファーストブック、セカンドブックプレゼント事業や、朝の絵本の時間、朝読書の時間の定着など、市内の読書ボランティアの協力等により読書活動が推進できている。	ファーストブック、セカンドブックプレゼント事業、朝の絵本の時間、朝読書の時間の定着、市内の読書ボランティアの協力等により、胎児期から乳幼児期、学童期、中学生の青年前期まで読書活動が推進できている。	・コロナの感染状況に配慮しながら、ファースト及びセカンドブックプレゼント、朝の絵本の時間、朝読書の時間等発達段階に応じた読書活動を推進した。 ・第3次計画の前年3年間が終了したため、こども読書活動推進会議において中間検証を行った。	・コロナの感染状況に配慮しながら、ファースト及びセカンドブックプレゼント、朝の絵本の時間、朝読書の時間等発達段階に応じた読書活動を推進した。	(R4・総括評価共通) ・コロナの感染状況に配慮しながら、ファースト及びセカンドブックプレゼント、朝の絵本の時間、朝読書の時間等発達段階に応じた読書活動を推進した。 ・次年度第3次計画の締結を迎えるため、こども読書活動推進会議においてこれまでの振り返りと第4次計画に向けての準備を始めた。	・制約がある中でも、各活動の場ごとに工夫をしながら、読み聞かせを毎日欠くことなく、続けてきたことは読書活動の推進につながった。 ・ファーストブック・セカンドブックプレゼントでは、各場の実情に合わせて、時間や場所、手渡し方、読み聞かせの仕方を工夫しながら、途切れることなく実施し、これらの本を活用した異年齢の読み聞かせ等、活用の広がりもみられる。					
	課題	青年前期・中期にあたる年齢の子どもの読書活動から遠ざかる傾向があることから、読書活動の一つの楽しみとし、興味関心を広げることが大切。毎朝の読書を継続し、通書への出会いを大切にす。また、実践的な活動として調べ学習コンクールへの参加、読み聞かせボランティアへの参加。	青年前期・中期にあたる年齢の子どもの読書活動から遠ざかる傾向があることから、読書活動の一つの楽しみとし、興味関心を広げることが大切。毎朝の読書を継続し、通書への出会いを大切にす。また、実践的な活動として調べ学習コンクールへの参加、読み聞かせボランティアへの参加。	・保育士が読み聞かせの大切さを学べる機会が減っている。 ・学童期においては、年齢に合った選書ができていない子の差がある。 ・青年前期・中期においては、読書活動から遠ざかる傾向があることから、興味関心を広げることが大切。	・保育士が読み聞かせの大切さを学べる機会が減っている。 ・学童期においては、発達段階に応じた選書指導が必要。 ・青年前期・中期においては、読書活動から遠ざかる傾向があることから、興味関心を広げることが大切。	(R4・総括評価共通) ・職員が研修した絵本をどのように保育の中でいかしていくかなど、計画しながら進めていく。 ・家庭によって読み聞かせの取組方が違う。「家庭読書」の意識づけが必要。 ・子どもが自ら目的を持って読むことができるような取組が必要。	・家庭によって読み聞かせの取組方が違う。それぞれの場ごとに、家庭読書の意義を伝え、家庭読書に繋がる取組を工夫していく必要がある。 ・選書の際に役立ち、より良い本を子どもたちに届けられるよう、茅野市独自の各年齢層の「読み聞かせリスト」を再検討していく必要がある					
改革・改善	改革・改善内容	読書の質を高めるため、司書教諭や学校司書への研修会や学校図書館の運営支援が重要施策となっている。司書教諭・図書館司書等の研修の充実を図る。また、青年中期にあたる年齢の子どもの読書教育を推進するため、学校図書館の利活用の更なる推進を図る。	読書の質を高めるため、司書教諭や学校司書への研修会や学校図書館の運営支援が重要施策となっている。司書教諭・図書館司書等の研修の充実を図る。また、青年中期にあたる年齢の子どもの読書教育を推進するため、学校図書館の利活用の更なる推進を図る。	・読書の質を高めるため、司書教諭や学校司書への研修会や学校図書館の運営支援を行う。 ・特に若い保育士の研修機会について、園長会等で問題提起する。 ・調べ学習コンクールを通して、探究的な学びの機会を提供する。(授業でも図書館を活用してもらう)	・読書の質を高めるため、司書教諭や学校司書への研修会や学校図書館の運営支援を行う。 ・保育士全体のスキルアップの機会を提案・提供していく。 ・調べ学習コンクールを通して、探究的な学びの機会を提供する。(授業でも図書館を活用してもらう)	・園、学校などにおける研究・研修の充実と、研修内容の共有をする。 ・子どもが自分自身で選んだ本を友だちに紹介をするなど、一冊の本を共有していくような工夫を検討する。 ・ブックリストの内容を検討したり、新たに絵本から読み物へ誘うのに適した本について研修したりする。	・各場における研修の充実、研修内容の共有をする。また、講座や健診等において絵本や読み聞かせの大切さの啓発を継続していく。 ・「家庭読書」の意識づけを課題と考え、読み聞かせや親子読書の勧めなど、家庭における読書活動の啓発を継続し、さらに実践につながる働きかけを行う。					
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱 重点 事務事業	4	4	4	4	4	4				
理由	子どもの読書活動の効果をもとめるためには、発達段階にあった読書活動を進めることが大切。読書活動に対する興味関心は個人差があるため、一人ひとりの子どもに合わせた環境づくりに留意する必要がある。	子どもの読書活動の効果をもとめるためには、発達段階にあった読書活動を進めることが大切。読書活動に対する興味関心は個人差があるため、一人ひとりの子どもに合わせた環境づくりに留意する必要がある。	聞く読書から読む読書へ子どもの関心を引いて、うまく移行させてあげる重要な時期である。この時期にたくさんの本と出会い語彙を増やすことが、授業内容の理解力向上にもつながるため、家庭読書も含め、充実を図る。	聞く読書から読む読書へ子どもの関心を引いて、うまく移行させてあげる重要な時期である。この時期にたくさんの本と出会い語彙を増やすことが、理解力向上にもつながるため、家庭読書も含め、充実を図る。	・読書活動に対する興味関心は、それぞれの生き方や環境によって個人差がある。すべての子どもたちに十分な読書の機会が与えられるよう、豊かな読書環境を整えていく必要がある。様々な面から本に出会うことができるような取組を重ねていく。	デジタル社会に対応した読書環境を整備し、子どもが主体的に読書活動を行うことができるような参画を推進し、多様な子どもたちの読書の機会を確保していくことが大切である。心に深く染み透り心を育てる読書や考える力を伸ばす読書を通して、読解力が向上し、より読書に親しむことができるような取組を継続していく。						
作成担当者	伊藤 研一	河西 茂廣	河西 茂廣	武居 直樹	武居 直樹	武居 直樹						
最終評価責任者	平出 信次	北沢 政英	北沢 政英	北沢 政英	上田 佳秋	上田 佳秋						
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月10日	2021年5月28日	2022年5月30日	2023年10月19日	2024年7月12日						